

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600450
法人名	有限会社 グループホームあまご
事業所名	グループホームあまご
所在地	愛媛県喜多郡内子町只海甲855-15
自己評価作成日	平成22年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 3 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(環境づくり)・共に生活する家として、安心できる場、楽しめる場、のんびりと暮していける場を作るよう努力している。  
 (ケアの内容)・何事も利用者のペースに合わせて行動するよう心がけ、笑顔で会話する。  
 ・相手が何を伝えようとしているのか、どう思っているのかよく聞く。  
 ・出来る軽作業(料理、洗濯、掃除、農作業等)やレクリエーションに声をかけて一緒に行う。  
 (医療面の充実)・医療面での連携がよく、細やかな健康管理が出来ている。また、家族様の希望があれば看取りも出来る。  
 (地域との関係)・関わりは多く、年間行事(運動会、学芸会、お大師様、お祭り、盆踊り等)に参加させてもらい、散歩時に出会う方からも気持ち良い挨拶をしていただいている。  
 (ホーム便り)・毎月ユニット別に発行(あまごだより)して家族に配布。お便りコーナーにその方の様子を報告、誕生者、行事、ナイスショットの写真を入れ、関わった者がコメントを入れるようにし、全員で仕上げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

協力医療機関に勤務する医師が運営するホームである。ホームのすぐ傍にある運営者の自宅を「いきいきサロン」として開放しており、地域の高齢者が気軽に集まり、ホームの利用者とも交流している。『地域とのふれあいを大切にします』という理念を掲げ、ホームが地域とふれあい、浸透していけるように、地域行事への参加等は積極的にしている。運営者(医師)は、利用者の健康管理への配慮が細やかで、職員は運営者と常に連絡が取れるため不安をあまり感じることなくケアにあたっている。医療連携が充実していることから、本人と家族の思いに応えられるよう終末期ケアに対応する等、全職員でケアに取り組む姿勢が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあまご

(ユニット名) どじょっこ

記入者(管理者)

氏名 力石 淳子

評価完了日 22年 1月 19日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 玄関先、リビング等に目標を掲示しており、理念は介護サービスの原点として、機会あるごとに振り返るように意識付けをし、念頭に置いて実践するように心がけ、努めている。</p> <p>(外部評価) 地域とのふれあいを大切にしたい理念は運営者が作成し、誰もが見える場所に掲示している。地域との関わりの中で利用者のその人らしい生活を支援していくという運営者の思いを職員も十分理解しており、「利用者のペースに合わせて」を心がけ、日々の業務に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所が地域と触れ合い、浸透していけるように、地域行事への参加、自治会活動への参加など積極的に行っている。地域の小学生とも交流を図ったりと入居者さんが地域と関わられるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 運営者が自宅を開放して実施する「いきいきサロン」に地域の高齢者が気軽に集まっており、ホウ酸団子をもらったり野菜作りのアドバイスをもらうなど、相互の交流は活発である。管理者は小学校や自治会の役員を務め、地域行事にも積極的に参加している。また、小学校から校外授業に訪れるなど、福祉教育の場ともなっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) グループホームの役割や認知症の方の理解など内子町グループホーム連絡協議会による地域の方も参加出来る研修を開いたり、運営推進会議の際には勉強会を開いたりと共に学びあっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議の場では、推進委員と意見、要望を言い合う場を設け、改善すべき課題を常に持ち、またその改善に向けて全職員に周知し、サービス向上につながるように努めている。	
			(外部評価) 会議は2か月に1回開催し、構成メンバーも多彩である。ホームからの報告だけでなく、発展的な会議運営のために、消防署の指導を得て行う避難訓練、救命救急法を会議と合わせて行う、行事参加形式での会議を取り入れる等、内容を工夫している。出された意見や情報はサービス向上に活かし、議事録は整理して町にも提出している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃より運営やサービスについての疑問点などを気軽に相談できる。また、運営推進会議はもちろんのこと、家族会や町内グループホーム合同運動会等の行事にも参加して頂き、意見交換や情報共有を行っている。	
			(外部評価) 市担当者とは、運営推進会議で介護保険制度に関することを説明してもらったり、認知症の研修会を行うなど、必要に応じて制度やサービスについての情報を共有しており、日頃から良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ユニット別に身体拘束禁止規定を掲示して職員の目にいつでも入るようにしている。また、各自で研修会にて学んだり、勉強会で取り上げて理解を図り、職員全員に身体拘束禁止の徹底を周知している。玄関の施錠については夜間のみ行い、日中は施錠しないようにしている。	
			(外部評価) 介護保険法指定基準における「身体拘束の対象となる具体的な行為」を理解するための研修会を行っている。車いすに長時間座らせることも拘束になるのではないかなど、ホーム内で具体的な事例を取り上げて検討し、職員間で意識を統一し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や研修において学んでおり、各々が理解をし徹底防止に努めている。また、日常的にもその行為が見過ごされることのないよう話し合い、再認識したりするよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域で開かれる研修会に参加したり勉強会の場を設けて職員が理解できるようにしている。また、対象者の御家族に関しては活用出来るように支援した。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設見学、施設での取り組み、理念、考え方等を十分に理解して頂き、意見や要望を受け入れた上で納得を頂くよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 御家族には面会時や電話連絡の際に意見をお聞きしたり、行事に参加して頂いた際にも意見や要望、日頃感じていること等を気兼ねなく話して頂くよう努めている。また、各ユニットの玄関には意見箱も設置しており、誰でもいつでも書いてもらえるようにしている。 (外部評価) 日頃から利用者及び家族とのコミュニケーションを大切にし、意見や要望などを伝えてもらいやすい雰囲気・関係づくりに努めている。家族会と運営推進会議を合同で開催するなどして、意見を伝えてもらう場を設けている。家族の協力を得ながら運営体制を工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 勉強会や担当者会議においてその機会を設けてもらっている。また、常日頃から意見、提案を気軽に話せるような環境を作っている。</p> <p>(外部評価) 日常的に管理者は職員の意見や提案を聞いている。定期的開催するホーム内勉強会や担当者会議に運営者及び管理者も参加して、意見を聞く機会を設けている。外部研修を受講した後は報告書を作成し、研修内容の共有に努め、ホームを共に良くしていこうとする姿勢がある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 就業規則に準じて、職員同士が互いに向上心を持って楽しく仕事が出来るような環境に今後も努めていきたい。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 外部研修を受ける機会を設けてもらっている。その都度研修に参加できるように声をかけてもらい職員一人ひとりの力に合わせて研修に参加できるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 町内のグループホーム連絡協議会という情報共有の場を月に一度設け、意見交換や合同での行事参加などの交流をしてサービスの向上に努めている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 契約前にご本人にお会いして事前調査を行い、ご本人の抱える不安や要望などを理解する努力をしている。入所前に施設に来て頂き、顔見知りの関係が出来るよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の思いや考えを受け入れ、また、ご本人の生活歴等を把握し、要望や不安なことを理解するようにしている。ご家族の考えや意見が職員と同じであるように意見交換をしながら関係づくりを行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族の希望や意見を聞き、ご本人の生活歴、状況に応じた対応を主治医と職員間で分かち合い、ご本人、ご家族にとって理想的なサービスが提供できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとりに十分に関わり、ご本人の意向を確認し、また、好きなこと、喜ぶことを探し、一日の中で笑顔がたくさん見られるように工夫している。生活を共にし、支えあうような関係を築けるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や家族会、毎月発行しているお便り等で意見交換や近況報告を行っている。また、担当者会議に出席して頂き、情報を共有し、ご本人のためにどのようなケアをしていけば良いか共に支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) なじみの方に面会に来て頂いたり、地元の入居者さんは玄関先のベンチで地元のご友人と気軽に話をしたりしている。また、ふれあいいきいきサロン幸輪会において昔からのご友人との交流も図られている。  (外部評価) 利用者が住んでいた家までドライブに出かけて昔馴染みの方と会ったり、ホーム隣のいきいきサロンに来る友人と会ったり、友人知人がホームを訪ねて来て懐かしむなど、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係や親密度を常に把握し、各々の関係が円滑になるよう職員が仲介役になっている。また、それぞれの個性が発揮できるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 最近、元気になられて退所された方がおられるが、サービス終了後も連絡を取り合っている。施設にも気軽に足を運んで頂けるように退所された方とのこれまでの関係を大事に思うように心がけている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を活用し、アセスメントをしながら入居者さんの一人ひとりの思い、暮らし、生活面での希望など把握するように努めている。言葉にならない方についても、ご家族に協力をお願いしたりその時その時のご本人にあったサービスの実施を心がけている。  (外部評価) 日々のかかわりの中で声をかけ、会話の中から把握するよう努めている。センター方式を利用してシートに記入し、申し送りノートで共有している。利用者は全員女性で、利用者間でのトラブルがあった際には、職員は公平に接し、上手に気分転換を図りながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前に行う事前調査やご家族の面会時等においてご本人の経過等を情報収集し、暮らしを共にする中での気づきを少しずつ積み重ね、把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) それぞれの生活リズムを職員はきちんと把握し、小さな日内変動も見逃さず、観察していく。出来ることへの可能性を持ちながら、こちらが決めつけないで見守り、把握するように努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) センター方式を利用し、毎日のサービスの中で気づきを介護記録に記入し、皆で情報を共有している。その上でご本人、ご家族、関係者と話し合う場を持ち、意向や希望を受け入れ、大切にした上で、現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価) カンファレンスで全職員が意見交換し、本人及び家族の思いや意向、状況に合わせた介護計画を作成している。介護計画は家族に確認してもらっている。3か月に1回は見直しを行い、状態の変化が見られる場合には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) その日にあったことを長期目標、短期目標をふまえて念頭に置き、介護記録に記入し、その日に勤務していない職員にも情報が共有できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご本人やご家族の状況、希望に応じて受診や送迎など柔軟な対応を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 入居者さんが豊かで安心のできる暮らしを楽しむことができるように、地域の小学生、民生委員、地域の方々、いきいきサロン幸輪会との交流を図り、笑顔がたくさん見られるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご本人、ご家族が希望される医師がいる場合はその医 療機関にて職員が受診付添をしたりご家族が付添をさ れることもある。また、ホームの施設長が医師なので 入居者の主治医となり、定期的な受診、最善の医療が 提供できる。</p> <p>(外部評価) 利用者は全員、運営者の勤務する医療機関をかかりつ け医としている。往診もあり、健康管理には十分気を つけている。医療機関とホームの協力体制も確立され ており、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 入居者さんの健康状態観察、変化を見逃さないで特変 があった場合は主治医とすぐ連絡を取るようしている 。また、訪問看護ステーションと委託契約している ので、訪問看護師が定期的に健康チェックに訪れ、そ の場、その時の適切な処置や対応が受けられるよう になっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 施設長である主治医の勤務先の病院での入院の場合、 情報交換、相談等、密にできる。また、それ以外の病 院での入院になっても情報交換等、密にできるように 担当者との関係を築くよう努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 看取り、ターミナルに関する事項はご家族に説明を し、同意を頂くようしている。また、入居者の病状 変化等あった場合には主治医がご家族に説明を行い今 後についてご家族の希望をきちんと確認し、話し合い の場を設けるよう信頼関係に努めている。</p> <p>(外部評価) ホームでの重度化及び終末期ケアのためには家族の信 頼・協力関係は欠かせないと考え、職員は、本人及び 家族と一緒に満足できる看取りができるよう熱 心に支援している。重度化及び終末期ケアの対応指針 があり、現在までに4人の看取りを経験している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 三か月に一度、消防署の方に来て頂き、急変時や事故発生時に備えての訓練を定期的に行っている。訓練の際には近隣の地域住民の方々にも声をかけ、参加して頂いている。また、急変時、事故発生時の対応マニュアルも作成しており、各ユニットに掲示、いつでも、その時がもし来てもすぐ目を通せるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署、地域の消防団員、近隣の住民の方々との協力により避難訓練、消火訓練を定期的に行っている。また、最近、火災に対応するスプリンクラーの設置を行っており、スプリンクラーに関しては今後、対応の仕方や扱い方など職員に周知していかなくてはならない。 (外部評価) すぐ近くに山や川がある立地からも、災害に対する意識は高く、3か月に1回避難訓練を行っている。消防署の指導のもと、実際に煙を発生させて視界の状況を確認するなど、具体的な訓練を近隣の方と一緒にしている。わかりやすい災害時マニュアルや緊急連絡方法等を壁に貼り、スプリンクラーの設置も完了している。	非常災害時には、地域に協力を求めるだけでなく、地域の一員としてホームができること（避難場所としてホームを活用してもらう等）を運営推進会議等を通じて周知し、地域との協力体制をより深めていくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員の言葉かけや接し方で入所者が気持ちや損ねたり傷つくことのないよう、十分に気をつけるとともに、日頃から一人ひとりのプライバシー、誇りを大切に声かけ、温かい声かけをするように心がけている。 (外部評価) 一人ひとりを尊重した丁寧な言葉かけや態度で接し、利用者の思いを大切に、あたたかい支援を心がけている。入浴時の同性介助等、利用者の希望を確認しながら誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 毎日の生活の中で、一人ひとりの表情や心の中を感じとり、また言葉に出せる入居者さんもそうでない方も職員が思いや希望を感じることで入居者さんの自己決定を促すようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者さんのその日の状態や体調、気分に合わせて、職員本位にならぬよう、利用者のペースで過ごしたいように支援しているが、まだまだ、職員本位の生活の流れになっている部分もあると思う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) これまでの生活習慣や慣れ親しんだ気持ちを大事に着替え、化粧などを見守り、手助けしている。その人らしく暮らせるよう、自尊心を傷つけぬよう配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 台拭き、配膳、おかずの取り分け、食器洗い、食器拭きなど準備～片づけに至るまで、できることに関しては職員とともに楽しく行っている。職員が料理の味付けなどを教わったりすることもよくある。	
			(外部評価) 利用者と職員と一緒に同じ食事をし、会話を楽しんでいる。食事風景は大変穏やかで、何度も「美味しい」という声が聞かれた。献立は、町の管理栄養士にアドバイスを受けて作成している。誕生日会には、それぞれの好きな物をリクエストしてもらい、できる限り希望に応じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 自力摂取の出来る方に関しては見守り、声かけにて楽しく食べていただくよう、栄養面、水分摂取にも気を配っている。また、自力摂取ができない方は介助にて、誤嚥の可能性のある方は刻み食にするなど工夫をして栄養状態、水分摂取に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に、一人ひとりの状態に合わせて口腔ケアへの声かけ、介助を行っている。また、義歯を殺菌消毒される入居者もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 入居者さんの排泄パターンを排泄記録にて記録、把握し、トイレの声かけや定期的な誘導にて介助している。また、立位のとれない方も日中は二人トイレ介助にて対応し、オムツ、パットの使用を出来るだけ減らすよう工夫し、気持ちの良い排泄を心がけている。	
			(外部評価) 夜間はオムツ・パッド等を使う利用者也数名いるが、日中は全員トイレでの排泄を心がけている。利用者ごとの排泄パターンを把握し、排泄がスムーズに行えるようトイレ誘導や声かけで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事（おやつ含む）の際に乳製品、食物繊維を多く含む食品を調理し摂取するようにし、毎日の朝の運動や、レクリエーション等での運動等で便秘の予防に努めている。また、排便コントロールが難しい方には便秘薬の処方にて対応し、体調管理に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの習慣や好みをよく聞き、個々に合った入浴を支援しているが職員が時間に追われて入居者さんのペースを乱すことのないようにすることや、急がせないようにすることなど、職員の都合に合わせないよう今後も努力していく必要がある。	
			(外部評価) 週3回（冬場は週2回）の入浴を基本としている。入浴を拒む利用者には、羞恥心や恐怖感を与えないようタイミングを見計らって声をかけたり、対応する職員を変えるなど工夫しながら、一人ひとりに合わせた入浴を支援している。入浴ノートに状況を記録し、職員全員で情報を共有して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日々の睡眠状態の情報を共有し把握している。夜の安眠に繋がるように散歩やレクリエーションなど日中を楽しむ工夫をしている。また、日中でも休息を取りたい方には取って頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者の服薬については主治医より説明を受けている。その情報を職員で共有し、周知するようにしている。また、投薬管理表ファイルにて個別に投薬管理をするようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の生活歴に合わせ、詩吟、トランプ等のレクや家事(洗濯物たたみ、食事の配膳等)、軽作業などを行うことで気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一緒に買い物に行ったり、お花見、紅葉狩り等、季節感を味わえるように外出をしている。たまに外食をしたり、本人の希望、要望に応じて戸外に出られるように支援している。また、ご家族が外出に連れて行ってくださることもある。 (外部評価) 季節毎に場所を選んで出かけている。利用者の身体状況等が年々重度化することで外出支援も難しくなっているが、気軽に外気に触れられる機会をもつよう、玄関前でくつろいだり、ホーム周辺を散歩している。利用者から「行きたい・会いたい」という希望があれば、体力や気候を考慮しながら本人に合わせた外出を支援するよう努力している。	管理者は、家族や地域住民の協力を得ながら、本人の誕生日などには希望に応じた外出を支援したいと考えているため、今後の取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族の希望により、自分で金銭管理をされる方もおられる。また、ご家族より現金を預かり、買い物を楽しみたい方には預かったお金より支払いが出来るよう職員が管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 遠方に家族や親戚の方がおられる方はいつでも電話できるようにしている。また、自分でかけられない方に関しては職員が電話を代行してかけることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 移動に邪魔になるものは置かないように常に意識し、広々としたスペースを確保し、明るくのんびりと落ち着けるような雰囲気づくり、季節感を味わえる壁飾りの掲示、季節感のある草花を飾るなど居心地のよい空間を作る努力をしている。</p> <p>(外部評価) リビングと食堂は一体的な造りで、利用者の様子を常に確認できる。利用者の写真や、訪問してくれた子どもたちの様子を掲示板に貼ってある。利用者は、大半の時間をリビングで自由に過ごしている。利用者と職員の話し声や笑い声が絶えることがない。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関先にあるベンチでは気の合った入居者さん同士が話ができるようになっていたり、リビングのソファにおいても入居者さんと職員とがゆっくりと話が出来たり、テレビを見たりと、くつろげる場になっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使い慣れていた服かけや椅子、時計、またご家族との写真やご家族が入居者様の為に作られた飾り物など、馴染みのものを置き、部屋でも居心地良く過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室の名札は小学生の手作りで、さまざまな色彩で分かりやすい。エアコン、ベッド、たんす、カーテンは備品であるが、使い慣れた家具や愛用していた物品を自由に持ち込み、自分らしい居室で落ち着いた生活を送っている。壁には、家族と過ごした懐かしい思い出の写真も飾られている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各個人の部屋のドアには名札を付けたり、読めない方には小物をつけて目印代わりにしたり、トイレの場所等を分かりやすくするなどの工夫をしている。また、ベッド柵の使用やその方の嗜好、安全性を考慮してマットのみの寝具にしたりと安全確保に努めながらその人の残存機能を発揮できるよう工夫している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600450
法人名	有限会社 グループホームあまご
事業所名	グループホームあまご
所在地	愛媛県喜多郡内子町只海甲855-15
自己評価作成日	平成22年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 3 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(環境づくり)・共に生活する家として、安心できる場、楽しめる場、のんびりと暮していける場を作るよう努力している。  
 (ケアの内容)・何事も利用者のペースに合わせて行動するよう心がけ、笑顔で会話する。  
 ・相手が何を伝えようとしているのか、どう思っているのかよく聞く。  
 ・出来る軽作業(料理、洗濯、掃除、農作業等)やレクリエーションに声をかけて一緒に行う。  
 (医療面の充実)・医療面での連携がよく、細やかな健康管理が出来ている。また、家族様の希望があれば看取りも出来る。  
 (地域との関係)・関わりは多く、年間行事(運動会、学芸会、お大師様、お祭り、盆踊り等)に参加させてもらい、散歩時に出会う方からも気持ち良い挨拶をしていただいている。  
 (ホーム便り)・毎月ユニット別に発行(あまごだより)して家族に配布。お便りコーナーにその方の様子を報告、誕生者、行事、ナイスショットの写真を入れ、関わった者がコメントを入れるようにし、全員で仕上げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

協力医療機関に勤務する医師が運営するホームである。ホームのすぐ傍にある運営者の自宅を「いきいきサロン」として開放しており、地域の高齢者が気軽に集まり、ホームの利用者とも交流している。『地域とのふれあいを大切にします』という理念を掲げ、ホームが地域とふれあい、浸透していけるように、地域行事への参加等は積極的にしている。運営者(医師)は、利用者の健康管理への配慮が細やかで、職員は運営者と常に連絡が取れるため不安をあまり感じることなくケアにあたっている。医療連携が充実していることから、本人と家族の思いに応えられるよう終末期ケアに対応する等、全職員でケアに取り組む姿勢が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあまご

(ユニット名) ふなっこ

記入者(管理者)  
氏名 藤澤邦哉

評価完了日 22年 1月 28日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所には、『地域とのふれあいを大切にします』という理念もあり管理者・職員共に理解・共有しサービスの実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 地域とのふれあいを大切にしたい理念は運営者が作成し、誰もが見える場所に掲示している。地域との関わりの中で利用者のその人らしい生活を支援していくという運営者の思いを職員も十分理解しており、「利用者のペースに合わせて」を心がけ、日々の業務に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所の役員は、自治会や、自治区の役員をしている。自治会の行事に参加をさせていただいたり、小学生・ボランティアとの交流を年に何回も持っている。また、避難訓練の際には、近隣の方にも協力して頂いている。</p> <p>(外部評価) 運営者が自宅を開放して実施する「いきいきサロン」に地域の高齢者が気軽に集まっており、ホウ酸団子をもらったり野菜作りのアドバイスをもらうなど、相互の交流は活発である。管理者は小学校や自治会の役員を務め、地域行事にも積極的に参加している。また、小学校から校外授業に訪れるなど、福祉教育の場ともなっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 事業所の近くにある施設長宅でふれあいいきいきサロンを毎月開催したり、小学校の校外授業に協力したり、運営推進会議などを通して直にふれあい、理解や支援に役立てている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を二カ月に一度開催し、外部評価の状況や年間計画、事例発表などをして、そこで委員の方からご指摘や意見を伺いサービスの向上につなげている。	
			(外部評価) 会議は2か月に1回開催し、構成メンバーも多彩である。ホームからの報告だけでなく、発展的な会議運営のために、消防署の指導を得て行う避難訓練、救命救急法を会議と合わせて行う、行事参加形式での会議を取り入れる等、内容を工夫している。出された意見や情報はサービス向上に活かし、議事録は整理して町にも提出している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 分からないことはまず尋ねることにしている。実際に、スプリンクラーの設置や加算の申請等、協力・指導をしていただいた。	
			(外部評価) 市担当者とは、運営推進会議で介護保険制度に関することを説明してもらったり、認知症の研修会を行うなど、必要に応じて制度やサービスについての情報を共有しており、日頃から良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設内に身体拘束禁止規定を見やすいところに掲示し、職員が全員理解できている。玄関施錠は、昼間はしていない。夜は、一般家庭と同じく施錠している。	
			(外部評価) 介護保険法指定基準における「身体拘束の対象となる具体的な行為」を理解するための研修会を行っている。車いすに長時間座らせることも拘束になるのではないかなど、ホーム内で具体的な事例を取り上げて検討し、職員間で意識を統一し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止法規定を施設内の見やすいところに掲示している。施設長を講師として全員で勉強会を開いて学んだ。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修を受け、カンファレンスにおいて学ぶ機会をもった。今のところは必要を感じる利用者はいないが、必要時には関係者に協力をお願いしたいと思っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前の訪問見学や話し合いを十分に行い理解・納得を得られていると思う。退所後の支援も行い、契約解除後の苦情は今のところない。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営規定・運営推進会議の記録・地域密着型サービス評価の結果など運営に関する文書を気軽に閲覧できるようにし意見箱も設置。誰もが利用できるようにしている。運営推進会議には家族・利用者にも参加していただき、意見交換をしている。  (外部評価) 日頃から利用者及び家族とのコミュニケーションを大切にし、意見や要望などを伝えてもらいやすい雰囲気・関係づくりに努めている。家族会と運営推進会議を合同で開催するなどして、意見を伝えてもらう場を設けている。家族の協力を得ながら運営体制を工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 施設長・理事・管理者は、カンファレンスに参加したり日ごろから職員と接する機会を設けている。</p> <p>(外部評価) 日常的に管理者は職員の意見や提案を聞いている。定期的開催するホーム内勉強会や担当者会議に運営者及び管理者も参加して、意見を聞く機会を設けている。外部研修を受講した後は報告書を作成し、研修内容の共有に努め、ホームを共に良くしていこうとする姿勢がある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 日頃からよく声をかけてもらい、褒めてもらい、気持ちよく働かせてもらっている。パートにも賞与、年に二度賞与があり、やりがいを感じる。また、行動計画として、幼児などの育児中でも働けるようにし職員の職場環境の整備に努めている。各自が、運営において役割をもち自主性を重んじながらその役割を果たしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修予定の情報を毎月掲示し、職員に研修を勧め、研修報告を提出し、皆で回覧している。勤務時間、曜日の調節で働きながらヘルパー二級を取得できた職員もいる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 月に一度、内子町グループホーム連絡協議会を行い同業者や役場担当者などと情報や意見の交換会をしている。また、合同での運動会や講演会、勉強会や研修で職員同士の交流が来ている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) よく話をする機会を設け本人からの直接の言葉や得た情報から推測し聞き入れ、不安なくサービスが受けられるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人にどんな生活をしてもらいたいのか、家族にも安心していただけるよう話し合いを十分に行い、お互いが容易に要望や意見を言えるようなよい関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査で得た情報や本人・家族との話し合いの中で今現在、何が起って、何に困って、何を望むのかを考え必要としている支援を見極めている。もちろん、他のサービス利用も念頭においている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者から学ぶということは多くあり、それを感謝し、一緒に考えたりその人にしか出来ないことをしてもらったりしながらお互いに助け合い、利用者には、まだまだ自分は必要とされているんだと実感を持ってもらえるよう暮らしを共にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会や電話などで家族の話聞く、支援の方法を共に考えてお互いが助け合う協力関係が出来ている。時に、本人と会おうのをためられる方が居たら、あつてあげて下さい と背中を押している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が昔よく行ったお寺や行きつけのパーマ屋、歯医者、お花見の場所などに行けるように支援している。昔住んでいた近所の方が訪ねてくることもある。五十崎地区の民生委員の方が大勢で来た時は、あちこちで話が盛り上がっていた。  (外部評価) 利用者が住んでいた家までドライブに出かけて昔馴染みの方と会ったり、ホーム隣のいきいきサロンに来る友人と会ったり、友人知人がホームを訪ねて来て懐かしむなど、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に出かけたり一緒に歌を歌ったり一緒に誕生日などのお祝いをしている。雰囲気の良い時は邪魔をせず、相互でコミュニケーションが成り立ち、難しい時は間に入り橋渡しをするなど気を配っている。しかし、利用者同士のトラブルもある。また、孤立気味の方も何名か居る。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 終了後も見舞いや葬儀に参列したり、相談があれば必要に応じて支援している。施設外でお会いする機会などがあれば声をかけ挨拶をしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式のアセスメントで本人の気持ち、言葉に出せない思いの把握に努めています。一人で生活がしたいや亡くなられた方に会いたいなど実現が困難であってもその気持ちは大切にしている。  (外部評価) 日々のかかわりの中で声をかけ、会話の中から把握するよう努めている。センター方式を利用してシートに記入し、申し送りノートで共有している。利用者は全員女性で、利用者間でのトラブルがあった際には、職員は公平に接し、上手に気分転換を図りながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式のアセスメントの利用や、本人や家族、今まで本人に関係してきた方からの聞き込みにより情報収集をしている。入所してかなり経って得られる情報もある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 施設側のタイムスケジュールに全てをあてはめず、その日により違う心身状態に臨機応変に対応し暮らしの習慣に応じた一人一人の一日の暮らし方を尊重している。毎日、ケース記録に生活状態を記入し把握できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 三か月に一度、本人の介護計画を見直す機会を参加出来れば本人、家族、職員、Drで行いサービスの評価を通して全員がサービス内容を見直し、意見やアイデアを出し合い現状に即した介護計画の作成に努めている。</p> <p>(外部評価) カンファレンスで全職員が意見交換し、本人及び家族の思いや意向、状況に合わせた介護計画を作成している。介護計画は家族に確認してもらっている。3か月に1回は見直しを行い、状態の変化が見られる場合には随時見直しを行っている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別に暮らしぶりやバイタル、水分、排泄などを記録している。記録用紙には、ケアプランを掲載し実践や結果、気づきを記入しやすくしている。全員がいつでも見れるように、モニタリング・アセスメントをする過程で利用している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 状況の変化に応じてサービス内容の変更や追加を行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) この山里そのものが地域資源であると思われる。地域にある神社、御大師様のお堂にお参りに行ったり、景観地に出かけたり、学校や自治会、ボランティアグループとの交流をしている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時に、本人・家族に希望があれば今までのかかり つけ医に診てもらおうようにしている。了解があれば当 施設のかかりつけ医が担当し月に一度は必ず受診し状 況に応じては毎日受診が受けられるようにしている。 また、専門的な受診が必要であれば希望の病院で受診 している。 (外部評価) 利用者は全員、運営者の勤務する医療機関をかかりつ け医としている。往診もあり、健康管理には十分気を つけている。医療機関とホームの協力体制も確立され ており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 訪問看護の事業所との医療連携の契約をしている。主 治医が施設長なので変化や気付きは主治医にすぐに報 告し必要な時に来ていただいている。月に一回は訪問 看護による健康チェックを行い、その時に職員は報告 している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、介護面の情報提供をしていて介護をする ときの注意点などを知らせている。医療面では、主治医 と入院先の医師が情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に、家族様に、重度化や終末期の指針について 説明・話し合いをしており希望に添えられるようにして いる。重度化した場合や看取りに入った場合でも頻繁 に十分な説明をし、その都度、家族に最終的な判断を 求めている。職員は、医師・訪問看護師・家族との連 携を行いながら支援に取り組んでいる。 (外部評価) ホームでの重度化及び終末期ケアのためには家族の信 頼・協力関係は欠かせないと考え、職員は、本人及び 家族と一緒に満足できる看取りができるよう熱 心に支援している。重度化及び終末期ケアの対応指針 があり、現在までに4人の看取りを経験している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルは作成し見やすいところに掲示してある。また、施設内での消防署協力でのAEDの使用法や応急手当の訓練を行っている。救急の日に、消防署主催の訓練に参加した職員もいるが、実践となると未知数である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を三カ月に一回実施している。避難訓練には、近隣の方にもいつも参加・協力してもらっている。消防法の改正によりスプリンクラーを設置した。地域の消防団との大がかりな訓練を実施した経験があり、本施設で火災が発生した場合の対策がとられている。山間部にあるため地域全体を巻き込むような災害時には、避難等が困難な可能性がある。 (外部評価) すぐ近くに山や川がある立地からも、災害に対する意識は高く、3か月に1回避難訓練を行っている。消防署の指導のもと、実際に煙を発生させて視界の状況を確認するなど、具体的な訓練を近隣の方と一緒にやっている。わかりやすい災害時マニュアルや緊急連絡方法を壁に貼り、スプリンクラーの設置も完了している。	非常災害時には、地域に協力を求めるだけでなく、地域の一員としてホームができること（避難場所としてホームを活用してもらう等）を運営推進会議等を通じて周知し、地域との協力体制をより深めていくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症高齢者に対するプライバシーの侵害は一つの虐待と捉え人権を尊重した言葉かけをしている。人生の先輩として尊敬し性格の違いを大切にし対応している。 (外部評価) 一人ひとりを尊重した丁寧な言葉かけや態度で接し、利用者の思いを大切に、あたたかい支援を心がけている。入浴時の同性介助等、利用者の希望を確認しながら誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 介護者側の都合で無理強いしたりしないよう、また、本人の意思を確認しながら介助を行っている。日ごろから自然に思いや希望が安心して出せれるような関係づくりに努めている。私の気持ちというノートを作り支援に活用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) タイムスケジュールや都合に合わせるのではなく、その日、その時に本人が何をしたいかを優先し支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) パーマ屋への希望があれば支援したり、本人と相談しながら施設内で散髪を行っている。朝や入浴後にブラッシングが出来るよう支援している。自分で服を選べない人にも同じのばかりにならない様、気を配ったりしている。介護側は、不便であっても昔からワンピースの方には、そのまま居て貰っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日毎食一緒に食事をしている。 味見・準備・片づけなど出来る方に出来ることを其々してもらってる。介助が必要な方でも出来るだけ自分で食べた実感もてるよう自分で食べれそうなものは自分で食べてもらっている。  (外部評価) 利用者と職員と一緒に同じ食事をし、会話を楽しんでいる。食事風景は大変穏やかで、何度も「美味しい」という声が聞かれた。献立は、町の管理栄養士にアドバイスを受けて作成している。誕生日会には、それぞれの好きな物をリクエストしてもらい、できる限り希望に応じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立表を持って担当の職員が行政に栄養相談に行き指導してもらっている。利用者に合わせて量や、形態を工夫している。水分摂取は、最低1300ccとし飲んだ量を記入し把握している。苦手な方には、ゼリーにして水分量の確保に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自力で出来る方には声をかけ見守り、介助を要する人には必要な部分の介助をし、一人一人に合わせて口腔内の清潔を保っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の力に応じた必要な介助を行い、なるべくオムツを使わないのと、パターンやサインを把握しながら介助を行っている。	
			(外部評価) 夜間はオムツ・パッド等を使う利用者が数名いるが、日中は全員トイレでの排泄を心がけている。利用者ごとの排泄パターンを把握し、排泄がスムーズに行えるようトイレ誘導や声かけで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘から来る認知症の精神・健康状態の悪化・行動障害については理解している。食物繊維や水分、予防体操を日頃から行っている。それでも便秘がちな人には個々に合わせた投薬を処方してもらい排便状況の確認を行い調度よく気持ちよく出して頂けるように支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 浴室は、色々な面で危険であり人様の前で裸にならないといけないという恥ずかしい場面でもあると気持ちを思いながら、個々の状態や希望を聞き入れながら安心して楽しんで頂けるよう支援している。また、入浴ノートを記録し全員が個々のニーズに合った入浴援助が出来るようにしている。	
			(外部評価) 週3回（冬場は週2回）の入浴を基本としている。入浴を拒む利用者には、羞恥心や恐怖感を与えないようタイミングを見計らって声をかけたり、対応する職員を変えるなど工夫しながら、一人ひとりに合わせた入浴を支援している。入浴ノートに状況を記録し、職員全員で情報を共有して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 寝る時刻、起きる時刻、室温や物音、寝具の汚れ、掛け布団以外の寝具が要る人要らない人、枕の高さ、季節の変わり目等、個々の状態や好みに応じて安眠できるように支援できている。その日の調子や習慣に合わせて休息を勧めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の管理は、担当者がいて処方後に投薬管理帳に記録し分包している。医師からの指示に従い便秘薬や解熱剤の使用をして経過を報告している。薬一つ一つの理解については、職員によって差があるので皆が理解できるように勉強中であるが分からない時は、担当者や医師に尋ねている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お坊さんだった方に朝のお経をリードしてもらったり歌の好きな人、上手い人には、好きな歌を聴いたりDVDで見たり一緒に歌ったり、外出や散歩を個々の希望や状態に合わせてしている。希望に添えない時もある。暮らしの中で個人個人が何が出来そうかを職員は考え役割を果たすことで自信を持ってもらえるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気候やその日の天気、希望に応じて散歩を行えるよう支援している。お参りや季節ごとの花見などの計画を立て実施している。家族と外出出来ている方もいる。本人の希望に即した外出が出来るように努力はしている。 (外部評価) 季節毎に場所を選んで出かけている。利用者の身体状況等が年々重度化することで外出支援も難しくなっているが、気軽に外気に触れられる機会をもつよう、玄関前でくつろいだり、ホーム周辺を散歩している。利用者から「行きたい・会いたい」という希望があれば、体力や気候を考慮しながら本人に合わせた外出を支援するよう努力している。	管理者は、家族や地域住民の協力を得ながら、本人の誕生日などには希望に応じた外出を支援したいと考えているため、今後の取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理が出来る方は半数ぐらいでその方は、所持されている。外出やお参りの時に使用している。職員がお使いをすることもありお金を使える支援をしている。使わない方、使い方が分からない方でも所持の希望があれば応じている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 番号を押したり取り次ぎ、代筆や上書き、投函等支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節に合わせた装飾やなるべく新しい写真を掲示している。清潔が保てるように清掃や消毒作業を行っている。また、くつろげるようにソファを設置。玄関先にはベンチ、日当たりの良い所に大きなテラス。温度や眩しさなどその時その時に不快な気持ちにならない様配慮をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>リビングと食堂は一体的な造りで、利用者の様子を常に確認できる。利用者の写真や、訪問してくれた子どもたちの様子を掲示板に貼ってある。利用者は、大半の時間をリビングで自由に過ごしている。利用者職員の話し声や笑い声が絶えることがない。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>座れる場所をいろんな所に設け個々に利用して貰っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>各居室には、現在や過去の家族との写真や思い出のもの以前から使っているもの、家族からの贈り物を置いたり本人の気に入っている服を飾ったりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の名札は小学生の手作りで、さまざまな色彩で分かりやすい。エアコン、ベッド、たんす、カーテンは備品であるが、使い慣れた家具や愛用していた物品を自由に持ち込み、自分らしい居室で落ち着いた生活を送っている。壁には、家族と過ごした懐かしい思い出の写真も飾られている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>居室入り口やトイレには目線に合わせた張り紙や手すりや介助バーの設置。『出来る』や『わかる』が自信につながるよう個々に応じた介助をしながら安全に生活が送って貰えるように支援している。</p>	